



10月27日から11月9日は「読書週間」です。裏にその由来を書きました、ぜひご覧ください。

『パレスチナのちいさいとなみ』

高橋美香 文・写真 皆川万葉 文 302.279/T



ニュースや新聞で連日続くパレスチナについての報道。激しい戦禍でも、そこに生きる人々の生活や笑顔はなくなりません。そんな「いとなみ」をあたたかな目線で紹介しています。パレスチナの歴史や現状もわかりやすく書かれています。

『あなたに犬がそばにいた夏』

岡野大嗣 短歌 佐内正史 写真 911.168/O



はっとした瞬間や大切にしたい風景や気持ち、それらをそっと切り取った写真と短歌が合わさって、すてきな作品集になりました。お気に入りの一首と出会えそうな予感があります。本の装丁にも興味をひかれます。

『フィールドワークのちから：「いまここ」を抜け出す人類学』

奥野克巳 著 389/O



現地(フィールド)へ出て調査(ワーク)すること。それは、他者と触れ合い、自分の中の常識が揺さぶられる体験でもあります。人類学について知りたい人、新しいアイデアや価値観に出会いたい人は、ぜひこの本を手にとってみてください。

『マスカレード・ライフ』

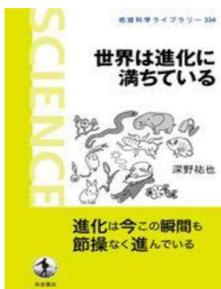
東野圭吾 著 913.6/Higa



死体遺棄事件の重要参考人は、文学賞受賞の候補者？選考会場のホテル・コルテシア東京で、新田・山岸コンビが新たな事件に挑みます。シリーズ累計発行部数550万部を突破した大人気「マスカレードシリーズ」の最新刊です。

『岩波科学ライブラリー 334: 世界は進化に満ちている』

深野祐也 著 408/1/334



「進化」と聞けば、何百年、何千年という時間を想像するかもしれませんが、しかし、進化は今まさに、わたしたちの日常でも起こっているのです。読み終わったら、世界の様々な生物や現象のとらえ方が変わってくるかもしれません。

『本でした』

又吉直樹・ヨシタケシンスケ 著 913.6/Mata



何のこと？と興味をひかれる絶妙なタイトル。これは、ばらばらになった本を復元するという不思議な人たちが活躍する架空のお話。ちょっと笑えたり、なるほどと思ったり。あなたも、ぱっと開いたページに出てくる本を自由に復元してみてもどうでしょうか。

『14歳の世渡り術: 僕の工作是ごみ清掃員。』

滝沢秀一 著 518.52/T



お笑い芸人の仕事を続けながらごみ収集会社に就職した著者が届ける特別授業。1学期のテーマは「人間性はおみに出る！」。ごみ出しを通じて、自分自身について客観的に知ることができそうです。ごみ分別レッスン付き。

『「透明」になんかされるものか: 鷺田清一エッセイ集』

鷺田清一 著 914.6/W



「透明にされる」とはどういう意味でしょうか。誰にも触れられない特別な存在にされること。誰からも気に留められないさみしい存在にされること。哲学者である著者と一緒、この社会で何が透明で何が透明でないのか、考えてみませんか。



今月の新着から



■0 総記

『マンガ家と学ぶ著作権実務入門』
すがやみつる 著 澤田将史 法律監修 021.2/S

■1 哲学

『人と思想117:千利休』
熊倉功夫・原田茂弘 著 102.8/H/117

■2 歴史、地理

『地球の歩き方:兵庫 2026~2027年版』
地球の歩き方編集室 編著 290.93/C

■3 社会科学

『日本手話がおしえてくれること:ろう者から学ぶための65の質問』
榎陽子・岡典栄 著 378.28/K

■4 自然科学

『岩波科学ライブラリー336:イカの恋、タコの愛』
佐藤成祥 著 484.7/S/336

『知って楽しいカモ学講座
カモ・ガン・ハクチョウのせかい』
嶋田哲郎 著 489.69/S



■8 言語

『自分の言葉で書く:思いが届く・相手が動く「文章」の書き方』
さわらぎ寛子 著 816/S

■9 文学

『威風堂マキツネの尻尾 1巻:ぞくぞくミッションキャンプ』
ソン・ウォンピョン 作 Mr.General Store 絵
渡辺麻土香 訳 929.13/S/1

■新書

『建築というきっかけ』
永山祐子 著 523.1/ナ

■料理

『捨てないレシピ 皮も種も、無駄なく使ってもう一品』
小嶋絵美 著 鳥居志帆 イラスト 596/K

■漫画

『くらべて、けみして:校閲部の九重さん』
こいしゆうか 著 新潮社校閲部 協力 M726.1/K/1

■絵本

『パンどろぼうとスイーツおうじ』
柴田ケイコ 作 P91/S

『どんなに きみがすきだか あててごらん』
サム・マクブラットニー ぶん アニタ・ジェラーム え
小川仁央 やく P93/J

「読書週間」とは・・・

終戦の2年後の1947(昭和22)年、まだ戦争の傷あとが日本中のあちこちに残っているとき、「読書の力によって、平和な文化国家を創ろう」と、出版社・取次会社・書店と図書館が力をあわせ、そして新聞や放送のマスコミも一緒になり、第1回「読書週間」が開かれました。

第1回「読書週間」は11月17日から23日でした。これはアメリカの「チルドレンズ・ブック・ウィーク」が11月16日から1週間であるのにならったものです。各地で講演会や本に関する展示会が開かれたり、読書運動を紹介する番組が作られました。いまの10月27日から11月9日(文化の日をはさんで2週間)になったのは、第2回からです。

それから約80年、「読書週間」は日本中に広がり、日本は世界の中でも特に「本を読む国民」の国となりました。「読書週間」が、みなさん一人ひとりに読書のすばらしさを知ってもらおうきっかけとなることを願っています。

(公益社団法人 読書推進運動協議会のHPより)

